除草3．だいず除草剤

HRACコード	成分名	商品名	一年生雑草	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	一年生広葉雑草	一年生雑草（アカザ科・アブラナ科・タデ科を除く）	一年生雑草（ツユクサ、カヤツリグサ、キク・アブラナ科を除く）	県推奨使用時期	備考
1	セトキシジム	ナブ乳剤(普)		○				雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期　但し、収穫30日前まで) 雑草生育期(イネ科雑草6～8葉期)(但し、収穫30日前まで) 雑草生育期(イネ科雑草9～10葉期)(但し、収穫30日前まで)	遅効性であり、イネ科雑草を完全に枯死させるまでに7～10日を要するので、誤まってまき直しなどをしないように注意する。
1	キザロホップエチル	ポルトフロアブル(普)		○				雑草生育期(イネ科雑草の3～10葉期)収穫30日前まで	①葉令の進んだ7～8葉期の一年生イネ科雑草に対しても高い効果がある。 ②広葉雑草及びカヤツリグサ科には効果が期待できないので、イネ科雑草優占圃場で使用する。 ③イネ科雑草を完全に枯殺するまでに約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。
2	イマザモックスアンモニウム塩	パワーガイザー液剤(普)	○					大豆出芽揃期～本葉1葉期、雑草発生始期～2葉期	周辺に飛散しないように注意する。(薬害)
3	トリフルラリン	トレファノサイド乳剤(普)					○	は種前 は種後出芽前 定植前(植穴掘前) 生育期(但し収穫45日前まで)	① 覆土は必ず3cm以上とし鎮圧する。 ②土壌が過湿の場合は使用しない。 ③一時に広範囲で使用する場合は、魚毒注意 ④トレファノサイド粒剤2．5もある。 ⑤生育期(但し、収穫45日前まで)に畦間土壌表面散布可(大豆にかからないようにする)。また、使用量は実作業面積に応じた量とすること。 汎用除草剤の項参照
6	ベンタゾンナトリウム塩	大豆バサグラン液剤(ナトリウム塩)(普)	○イネ科を除く					だいずの2葉期～開花前(雑草の生育初期～6葉期)但し、収穫45日前まで だいずの生育期(雑草の生育初期～6葉期)但し、収穫45日前まで	①アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科の雑草には効果が劣るのでこれらの優占ほ場では使用しない。 ②薬害について ・大豆の葉に斑点、色抜け、黄変、萎縮症状の一過性の薬害を生じる場合がある。 ③薬害を助長するので重複散布はしないこと。また、以下の場合は薬害を助長することがあるので使用を避けること。 ・著しい高温が続く場合 ・日射が強く蒸散が盛んな場合 ・低温、湿害、肥料不足によりだいずが生育不良の場合
9	グリホサートカリウム塩	タッチダウンiQ (普)	○					耕起又はは種7日以前(雑草生育期)※ は種後出芽前(雑草生育期) 畦間処理:雑草生育期(但し収穫前日まで)	※コウキヤガラに適用あり 汎用除草剤の項参照
					○			生育期(雑草生育期)(但し、収穫7日前まで)	専用の器具を用いて,作物に付着しないように塗布する。
9	グリホサートカリウム塩	ラウンドアップマックスロード	○					・耕起前または出芽前まで(雑草生育期) ・収穫前日まで(雑草生育期、畝間処理)	
10	グルホシネートPナトリウム塩	ザクサ液剤 (普)	○					収穫28日前まで(雑草生育期 は種・定植前又は畦間処理)	豆類(種実、ただし、らっかせいを除く)で登録 汎用除草剤の項参照
10	グルホシネート	バスタ液剤 (普)	○					は種前(雑草生育期) は種後出芽前(雑草生育期) 定植5日前まで(雑草生育期) 収穫28日前まで(畦間処理:雑草生育期) 収穫28日前まで(株間処理:本葉5葉期以降雑草生育期)	汎用除草剤の項参照

除草3．だいず除草剤

HRACコード	成分名	商品名	一年生雑草	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	一年生広葉雑草	一年生雑草（アカザ科・アブラナ科・タデ科を除く）	一年生雑草（ツユクサ、カヤツリグサ、キク・アブラナ科を除く）	県推奨使用時期	備考
14	フルチアセットメチル	アタックショット乳剤(普)			○			本葉2葉期～開花前（雑草生育期）（但し、収穫45日前まで）	①キク科、カヤツリグサ科には効果が劣るため、それら草種が優先するほ場では使用しない。 ②処理時に展開していた葉に褐斑を生じ、生育が遅れることがあるので、気象条件、栽培条件等によりだいずが生育不良の場合、又は生育不良が予測される場合には使用しない。
15	アラクロール	ラッソー乳剤（普）	○					は種後出芽前	汎用除草剤の項参照
15	ジメテナミドP	フィールドスターP乳剤（普）				○		は種後出芽前（雑草発生前）	
5 15	プロメトリン・ベンチオカーブ	サターンバアロ乳剤(普)	○					は種後出芽前	①砕土、整地はていねいにする。 ②播種覆土後できるだけ早く雑草の発生前に使用する ③サターンバアロ粒剤もある。
15 5	ジメテナミドP・リニュロン	エコトップP乳剤(普)	○					は種後出芽前（雑草発生前）	①大豆発芽後には散布しない。 ②散布後の多量の降雨は薬害を生じる恐れがあるので天候を見極めて散布する。 ③眼及び皮膚に強い刺激性があるので注意する。 ④エコトップP細粒剤Fあり
15 5	アラクロール・リニュロン	ラクサー粒剤（普）	○					は種後出芽前（雑草発生前）	①土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分を含んでいるときに使用する。 ②排水不良及び過湿条件での使用は薬害発生を招くので避ける。 ③ラクサー乳剤あり
9 14	グリホサートイソプロピルアミン塩・ピラフルフェンエチル	サンダーボルト007(普)	○					耕起前又はは種10日前まで（雑草生育期：草丈30cm以下） 畦間処理：雑草生育期（草丈30cm以下）（但し、収穫前日まで） は種後出芽前（雑草生育期：草丈30cm以下）	
22 22	ジクワット・パラコート	プリグロックスL（毒）	○					は種後出芽前雑草生育期（草丈20cm以下） 畦間処理：雑草生育期（草丈30cm以下）（但し収穫3日前まで）	汎用除草剤の項参照
15 3 5	ベンチオカーブ・ペンディメタリン・リニュロン	クリアターン乳剤(普)	○					は種直後(雑草発生前)	①大豆発芽後には使用しない。 ②砂質、排水不良ほ場での使用は避ける。 ③砕土・整地は丁寧に行い、覆土は必ず2～3cmとする。 ④土壌が乾燥している場合は、効果が劣ることがあるので希釈水量を多めにし、適度な湿りを保つようにする。 ⑤過湿条件での使用は薬害発生を招くので避ける。 ⑥タデには効果が劣る。
15 3 5	ジメテナミドP・ペンディメタリン・リニュロン	プロールプラス乳剤（普）	○					は種後出芽前（雑草発生前）	